様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（国語） ／小野　由美子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

①日本語教育分野の授業（日本語教育学、日本語教育法など）においては、日本語学習が必要な成人、年少者の観察機会を増やし、外国語としての日本語学習、日本語教育の課題について実践的、体験的に思考し、主体的に学習することを支援する。
②多様な授業方法（ラベル・ワーク、ケース・メソッド他）や研究方法（質的研究法、アクション・リサーチ）を自ら授業で実践し、学生が体験を通して学べるように試みる。

2．点検・評価

①　健祥会介護専門学校に留学しているインドネシア人学生の日本語学習を見学に出かけた。また、
　JICA受託研修の機会を利用して、日本語を教える機会を設けて、理論と実践を往還するように仕掛けた。学生のリフレクションでも実践的内容を高く評価していることが分かった。
②　ラベルワークを前期実施し、好評であった。後期は、日本語を母語としない子どもの教科学習（リライト教材）と、質的研究法（マイクロエスのぐらフィー）の実習を行った。受講生からは新しい研究内容、方法に触れたことで刺激を受けたとの評価を得た。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学部・大学院に在籍する日本人学生に対して、異文化環境のもとで授業する経験を企画・実施し、多様化する公立学校の学習者に柔軟に対応できるスキル開発を支援する。
②これまで実施してきた国際教育研究会をさらに充実させ、留学生と日本人学生との交流を企画・実施する。その際、学生自身が実施プロセスに主体的に関わるように工夫する。

２．点検・評価

① 本学大学院生（理科コース）が、インドネシアの中学校で授業を行うよう企画し、実施を支援した（7月と11月の2回）。
② 前期、ケニア、マラウイ、ウガンダの研究者を招いて、2回実施した。
③ 大学祭において、民族衣装ファッションショー、茶道同好会茶会を、学生主導で企画し、好評を博した。
④ 学部生がアメリカの小学校で短期インターンシップを行うのを支援した。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①本学学生による異文化環境下での学びを変容的学習理論の枠組みを援用して明らかにする。
②教育実践のレンディング・ボロウィング(lending and borrowing)の視点から、授業研究の途上国への移転について、ケニア、南アフリカの事例を研究する。
③科研（途上国の授業文化に関する研究）の成果をまとめる。

２．点検・評価

①に関して、世界授業研究大会（11月＠東京大学）で本学学生のインドネシアでの授業体験を発表した。連合大学院の紀要に、研究論文が掲載された。
②に関して、科研申請した（採択された）。
③日本比較教育学会（6月＠早稲田大学）、南部アフリカ理数科教育学会（1月＠マラウィ）で研究発表した。
④共同研究者と論文作成の協議を行い、4月に投稿することができるようにまとめた。
⑤インドネシア国際授業研究大会に招聘され、基調講演を行った。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

①国際交流委員会のメンバーとして、大学の国際化に寄与する。

２．点検・評価

① 南アフリカ、プレトリア大学との交流協定の仲介役を果たした。
② 来年度、日米教員養成協議会を本学で開催することを引き受け、シンポジウムを企画した。
③ 留学生コーディネーターとしての職務を果たした。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①アフガニスタン識字教育強化プロジェクトならびにアフガニスタン教師教育強化プロジェクトに専門家として参画し、現地での業務ならびに本邦での受け入れ研修を行う。
②ケニア研修員を受け入れ、指導技術改善の研修を行う。
③鳴門西小学校に在籍する本学留学生の子弟の日本語教育を支援する。
⑤日米学生フレンドシップ事業を企画・実施する（5月及び11月）。

2. 点検・評価

① 現地の治安悪化に伴い、大学執行部の判断として、派遣を中止。現地でのプロジェクト参画はなし。本邦受け入れ研修を実施した（コース・リーダー）。
② ケニア受け入れ研修のコース・リーダーとして指導技術改善研修を実施した定。またこれにあわせて、途上国から研究者を招聘し、協同指導体制を取った。
③ 鳴門西小学校と保護者（本学留学生）の連絡を支援した。
④ 震災のため日米フレンドシップによる5月の受け入れは中止した。しかし、昨年の事業が好評だったため、本学学生の希望者があり、1月に、ミドル・テネシー州立大学で実施した。

ほぼ、想定の範囲内。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

今のところ、特になし。